

佐伯市水産業振興計画評価調書

第1次「佐伯市水産業振興計画」
（計画期間：令和2年度～令和4年度）

第1次佐伯市農業振興計画 個別施策評価調書（R2～4総括評価） 記入要領

【重点取組による評価】・・・R3までの実績及びR4見込みを踏まえた総括的な評価及び理由

評価について

重点取組の各「主な取組」ごとに第1次計画期間の3年間を通じ、計画した取組ができたかどうか、成果があがっているかどうかの評価を行う。評価の基準については以下により判定すること。

- ・「A」---順調に取り組めた
- ・「B」---概ね順調に取り組めた
- ・「C」---取組がやや不足していた
- ・「D」---取組が不足していた

評価理由について

評価に基づいた理由となるように留意すること。
(例えば評価が「B」の場合、大半が順調に取り組めた中で「A」に至らなかった理由まで分かるような内容とすること。)

平均評価について

「主な取組」それぞれの評価を点数化し、以下の計算式により算出した値を平均評価とする。

- ・「A」---3点
- ・「B」---2点
- ・「C」---1点
- ・「D」---0点

<計算式>

「主な取組」それぞれの点数合計／満点合計が、

- 75%以上 : A (順調に取り組めた)
- 50%以上75%未満 : B (概ね順調に取り組めた)
- 25%以上50%未満 : C (取組がやや不足していた)
- 25%未満 : D (取組が不足していた)

【具体例】

主な取組ア---「A」 (順調に取り組めた) → 3点
主な取組イ---「C」 (取組がやや不足していた) → 1点
主な取組ウ---「D」 (取組が不足していた) → 0点

4点／9点≒44% ⇒「C」 (取組がやや不足していた)

【目標値による評価】

評価について

目標値の項目ごとに、R4年度目標値に対しR3年度までの実績及びR4年度見込みを踏まえ成果があがっているかどうかの評価を行う。評価の基準については以下により判定すること。

- ・実績値（R4年度見込み含む）がR4年度目標値以上 : 「A」 ---順調に推移
- ・ // R4年度目標値の70%以上 : 「B」 ---概ね順調に推移
- ・ // R4年度目標値の70%未満 : 「C」 ---やや遅れている
- ・ // R4年度目標値の50%未満 : 「D」 ---遅れている

※新型コロナ等、特殊要因により上記の基準以外で評価する場合は評価理由欄で説明すること。

平均評価について

【重点取組による評価】と同様に記入すること。

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価について

「重点取組による評価」と「目標値による評価」を踏まえ総合的に勘案し、施策の成果について4段階で評価する。

- ・「A」 ---順調に進み成果があった
- ・「B」 ---概ね成果があった
- ・「C」 ---やや成果不足となった
- ・「D」 ---成果が不十分であった

課題と今後の施策展開について

総合評価を踏まえ、洗い出された課題及び課題解決に向けた今後の対応を記入する。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	1 海面・内水面漁業の振興
個別施策	(1) 漁場環境の整備と保全
計画頁	P10

【重点取組】水産資源の維持増大を図るため、市内各海域の特性に合わせた増殖施設の整備に取り組みます。

主な取組	ア	コンクリートブロックや自然石による増殖場の設置

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 R2佐伯湾増殖場造成事業により上浦地区に130㎡、県営事業により蒲江地区に12,847㎡の増殖場を整備した。R4は県営事業により上入津地区増殖場 4,000㎡の測量調査を実施する。	A
		【評価理由】 計画通り事業を行うことができた。	
イ		【取組状況】	
		【評価理由】	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値【～R2】	実績値【～R4】	目標値(～R4)	評価	平均評価
(1) 増殖場造成面積	2,800㎡ R1	12,977㎡	12,977㎡	12,000㎡	A	A
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	12,977㎡の増殖場整備を行った。 今後は、イサギ等魚類資源の沖合魚礁漁場への供給効果が期待される、稚魚の保護育成を目的とした増殖場整備など、より広域的な機能を有する県営増殖場の整備を推進する。 一方、既設の増殖場の中には砂に埋没したり、磯焼け状態になり機能が低下したものが散見される。今後は、磯焼け対策におけるモニタリングや各種調査、漁業者からの情報等で現状を把握し、機能低下した増殖場については、改修等の対策を検討する。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	1 海面・内水面漁業の振興
個別施策	(1) 漁場環境の整備と保全
計画頁	P10

【重点取組】◆漁場環境保全のため、磯焼け対策事業に取り組みます。

主な取組	ア	市内5活動組織による磯焼け対策の実施
	イ	食害生物の利用促進による駆除の効率化

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 藻場保全のため、母藻の設置や食害生物の除去、岩盤清掃等の保全活動に対し、補助金を交付し、藻場の減少を抑えた。	A
		【評価理由】 計画通りの事業を行うことができた。	
イ	A	【取組状況】 海藻の食害生物であるブダイを利用し、フィッシュアンドチップスという加工品や、道の駅かまえでは、レストランメニューの材料に使用し、水産加工組合ではアイゴを使ったスープの開発を行っている。 【評価理由】 原材料の確保に苦労しながらも、毎年取り組むことができた。	A

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値(R4年度)	評価	平均評価
(1) 食害生物の利用促進事例	1件	R1	2件	3件	3件	A	A
(2)							

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	これまでの取り組みにより、食害生物の駆除や母藻設置などの活動が藻場の維持につながるという漁業者の共通認識を得ることができた。 今後は、専門家による科学的データの裏付けをもった知見等を対策に活用し、さらに効率的な保全活動を行う必要がある。 食害生物の利用促進については、メニュー開発は進んでいるものの、原魚の安定的な確保が課題となっている。今後は駆除活動との連携や、食材として活用する場合の鮮度保持を考慮した集荷方法など、食害生物を効率的に回収・流通させる仕組みを検討する必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	1 海面・内水面漁業の振興
個別施策	(2) 種苗放流と適切な資源管理
計画頁	P 1 1

【重点取組】効果的な種苗放流に取り組みます。

主な取組	ア	適地放流の推進
	イ	クルマエビ放流における生残率向上の取組
	ウ	内水面における資源の繁殖保護のためのカワウ防除、外来魚駆除
	エ	標識放流と市場調査による放流効果の確認

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価		取組状況及び評価理由	平均評価
ア	A	<p>【取組状況】 漁協や漁業集落が事業主体となって、マダイ・イサキ・アワビ・クルマエビ・アユ等の魚種を最も適切な水域に放流した。</p> <p>【評価理由】 マダイ・イサキは外敵の少ない海域、アワビは藻場の岩陰、クルマエビ・ヒラメは砂底域、アユは水苔の多い浅瀬を選んで放流するよう指導することにより、放流後の生残率向上を図ることが出来た。</p>	A
イ	A	<p>【取組状況】 海域への直接放流を廃止し、囲い網放流やかぶせ網放流などの馴致放流を実施することにより、放流後の生残率の向上を図った。</p> <p>【評価理由】 漁業者、漁協、行政が協力して馴致放流に取り組むことにより、効果的な放流を行うことができた。</p>	
ウ	A	<p>【取組状況】 アユ等の放流直後のカワウによる食害防止対策として、漁協が実施するテグス張り作業等を支援した。</p> <p>【評価理由】 食害防止対策を毎年実施することにより、カワウによる被害の報告は年々減少傾向にある。</p>	
エ	A	<p>【取組状況】 クルマエビ放流において、新たに開発された標識（トラモアタグ）による放流効果の確認を国の研究機関とともにいった。</p> <p>【評価理由】 標識放流については、新技術を積極的に取り入れるとともに、県と協力して市場調査を行っている。</p>	

【 目標値による評価 】・・・R4年度実績値を記入

項目		現状値・年度		実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)	市場における放流効果調査	7魚種/年	R1	7魚種/年	7魚種/年	7魚種/年	A	
(2)								
(3)								
(4)								

【 総合評価と今後の施策展開について 】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	<p>適地放流や生産率の向上に向けた取組は、毎年改善しながら行っており、今後も国・県の指導を得ながらさらなる改善を図る。 県と協力し、魚市場調査による放流効果の検証を引き続き実施する。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	1 海面・内水面漁業の振興
個別施策	(2) 種苗放流と適切な資源管理
計画頁	P11

【重点取組】適切な資源管理の推進に取り組みます。

主な取組	ア	海域の実情に合わせた自主的な資源管理の取組
	イ	魚種ごとの資源状態に応じた資源管理計画の見直し

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 アワビ放流では、地区ごとに放流海域を3ヶ所設定し、3年ごと漁獲できるよう管理している。	A
		【評価理由】 県の指導のもと、資源管理に取り組む意識付けができた。	
イ	A	【取組状況】 県の指導により、支店ごとの資源管理計画の見直しを実施中である。	
		【評価理由】 令和5年度に予定されている「資源管理協定」の制定に向け、資源管理計画の見直しが着々と進んでいる。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値 【～R3】	実績値 【～R4】	目標値 （～R4）	評価	平均評価
(1) 資源管理に係る講習会の開催	0回	R1	1回	2回	5回	B	B
(2) 資源管理計画の見直し	—	R1	6支店	6支店	6支店	A	

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	大分県の水産研究部による資源管理に関する研究事例や、他県での優良事例などを題材にして、講習会や勉強会に積極的に取り組み、資源管理型漁業への意識啓発を図る。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(1) 養殖環境の維持・改善
計画頁	P 1 3

【重点取組】赤潮被害が発生する海域の漁場改善に取り組めます。

主な取組	ア	閉鎖性海域の漁場改善の取組
	イ	底質改良剤の散布と効果の検証

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 入津湾漁場改善事業の実施にあたり、これまで関係機関との協議を行ってきた。令和4年11月から本工事（作れい及び覆砂）に着手した。	B
		【評価理由】 関係機関との協議も終わり、滞りなく事業が進められている。	
イ	C	【取組状況】 水質の富栄養化を防ぐために、上入津、下入津、米水津地区での底質改良剤の散布に対して補助金を交付した。	
		【評価理由】 底質改良剤の散布は行ったが、効果の検証はしていない。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	入津湾漁場改善事業は、計画に沿って事業を事業を実施する。底質改良剤の散布は、今後効果の検証を行い適切な事業実施を図る。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(1) 養殖環境の維持・改善
計画頁	P 13

【重点取組】 赤潮監視体制の強化に取り組みます。

主な取組	ア	赤潮調査の連携と情報伝達の改善
	イ	赤潮自動観測装置の増設

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 佐伯市管内各海域において、県・市・漁協が協力して赤潮調査を行った。また、情報伝達方法の改善として、SNSやEメールの活用促進を図った。	A
		【評価理由】 情報伝達方法の改善を図ることが出来た。	
イ	B	【取組状況】 赤潮自動観測装置の増設に向けて県と検討を行った。また、既設の観測装置の情報を有効活用できるよう、従来からの赤潮情報の中にQRコードを掲載し、リアルタイムでの情報取得方法を広く周知した。	
		【評価理由】 検討の結果、現状十分な効果が認められることから、当面は増設を見送り4台で運用することに決定した。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1) 赤潮自動観測装置設置台数	4台	R1	4台	4台	5台	B	A
(2) 携帯端末などによる赤潮情報発信の改善	3地区	R1	8地区	8地区	8地区	A	

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	赤潮調査結果をSNSやEメール等で漁業者へ通知する地区が増えたため、情報共有の迅速化を図ることが出来た。 また、赤潮が頻発する海域には赤潮自動観測装置が設置され、スマートフォンで最新の水質情報が閲覧可能になった。 これらにより赤潮監視体制の強化を図ることが出来た。 今後は、赤潮プランクトンの増殖状況をより詳しく把握するための情報の精度向上、及び閲覧者数のさらなる拡大を図り、赤潮への早期対応ができるような体制づくりを行う。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(1) 養殖環境の維持・改善
計画頁	P13

【重点取組】 養殖漁場の整備及び維持・管理に取り組みます。

主な取組	ア	鶴見地区浮消波堤の維持管理
	イ	屋形島養殖場消波堤の機能強化
	ウ	養殖施設の機能保全

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 大分県漁協鶴見支店と委託契約を結び、日常の点検を行うとともに、標識灯の消耗部品の定期的な交換を行い、浮き消波堤の維持管理に努めた。	A
		【評価理由】 漁協との委託契約により、適切な維持管理を行うことができた。	
イ	B	【取組状況】 県営事業により、蒲江地区屋形島消波堤の機能保全工事（L=720m）を行い、周辺養殖場の静穏化を図った。	
		【評価理由】 当初予定より、事業の完了が1年遅れたが、予定していた事業量を実施することができた。	
ウ	A	【取組状況】 大分県漁協上入津支店より、養殖場方塊の老朽化対策の要望があった。実施に向けて、今後の事業計画に盛り込み調整を行った。	
		【評価理由】 漁協からの要望に応じて、計画を進めることができた。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績を記入

項目	現状値・年度	実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	鶴見地区浮消波堤での機能保全計画に基づく維持管理など、養殖漁場の適正な管理ができた。 これまでと同様に、漁協、漁業者との情報交換を密にして養殖施設の状況把握に努め、漁場の維持管理を行う。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(2) 養殖経営の改善
計画頁	P 1 4

【重点取組】 ICTなどの新技術を活用した養殖業を推進し、養殖業の経営力強化に取り組みます。

主な取組	ア	ICT技術等の活用による収益性の向上
	イ	陸上養殖における生産体制の強化

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価		取組状況及び評価理由	平均評価
ア	B	【取組状況】 R2～R3に自動体側測定器の実証試験（ブリ、カンパチ）を行った。また、R2～R4にかけて、市内養殖場にICT型自動給餌機「UMITRON CELL」5台を設置し、実証試験（マダイ）を実施中した。	B
		【評価理由】 自動体側測定器の実証試験は完了したが、機器の測定精度などの課題点が残っているため導入には至っていない。ICT型自動給餌機の実証試験は順調に進んでおり、省力効果を示唆するデータが得られた。	
イ	A	【取組状況】 R2～R3に酸素発生器10基の導入に対し補助金を交付した。また、R2～R4にヒラメの成長促進効果が期待される緑色LED装置を7カ所で導入し、補助金を交付した。	B
		【評価理由】 酸素発生機は、目標であった10基の整備を達成し、緑色LED照明は目標の6カ所を上回った。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目		現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値(R4年度)	評価	平均評価
(1)	陸上養殖施設酸素発生器整備	4基	R1	10基	20基	14基	A	C
(2)	ICT自動給餌機整備	0台	R1	0台	0台	5台	D	
(3)	ブリ自動体側測定器整備	0カ所	R1	0カ所	0カ所	2カ所	D	
(4)	緑色LED養殖設備整備	0カ所	R1	6カ所	7カ所	6カ所	A	

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	自動体側測定器については、R2にブリで、R3にカンパチで実証試験を行った結果、測定の精度に課題があることがわかったため、導入には至っていない。 ICT型自動給餌機は、R4まで実証試験を行い、R5以降整備に取り組む見込みである。 陸上養殖における酸素発生器と緑色LEDの整備については、現時点で要望のある経営体については概ね整備が完了する。今後は生産現場における成果の検証が課題となる。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(2) 養殖経営の改善
計画頁	P14

【重点取組】付加価値の高い養殖魚づくりに取り組みます。

主な取組	ア	ブランド魚の普及増産
	イ	複合養殖による経営の安定化
	ウ	漁協加工場の生産体制強化

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	B	<p>【取組状況】 都市部でのイベント等で、かぼすヒラメやかぼすブリをはじめとしたブランド魚のPR活動を行い、消費拡大を図った。</p> <p>【評価理由】 コロナ禍の影響により、養殖魚全般の生産が低調であるが、かぼすヒラメ及びかぼすブリの生産は引き続き行われている。</p>	C
イ	D	<p>【取組状況】 複合養殖に取組んでいる漁業者はいるが、ブリ人工種苗の開発や緑色LEDによるヒラメの成長促進など、端境期の解消による周年出荷で経営安定化を図るという考え方へとシフトしてきたため、特に取組は行っていない。</p> <p>【評価理由】 取組を行っていないため。</p>	
ウ	A	<p>【取組状況】 大分県漁協加工場の生産体制強化のため、新規加工場の整備計画策定や、用地の利用計画変更などの支援を行った。</p> <p>【評価理由】 大分県漁協の新規加工場の設置に対し、事業計画の策定支援や補助金の交付等を行った。</p>	
エ		<p>【取組状況】</p> <p>【評価理由】</p>	

【 目標値による評価 】・・・R4年度実績値を記入

項目		現状値・年度		実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)	かぼすブリの推進	360t/年	R1	214t/年	139t/年	540t/年	D	
(2)	かぼすヒラメの推進	64t/年	R1	48 t/年	50.2t/年	80t/年	C	
(3)								
(4)								
								D

【 総合評価と今後の施策展開について 】

総合評価	課題と今後の施策展開について
C	<p>ブランド魚の普及増産については、コロナ禍やモジャコ不漁の影響により生産量が減少した。今後はポストコロナを見据えた普及計画を構築する必要がある。</p> <p>経営の安定化については、複合養殖による取組のほか、端境期の解消など生産サイクルの調整による取組などを柔軟に取り入れ、コロナ禍や急激な社会情勢の変化などに対応できる体制づくりが必要である。</p> <p>漁協加工場の生産体制強化については、大分県漁協の新規加工場の設置に向け、R4に実施設計を行い、R5の完成を目指す。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(3) 新たな養殖業の推進
計画頁	P15

【重点取組】環境に優しい二枚貝養殖（カキ類、ヒオウギガイなど）を普及します。

主な取組	ア	作業の省力化を図るバスケット式養殖の普及
	イ	二枚貝養殖の経営モデル指標の策定

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 カキ類のバスケット式養殖への着業を希望する漁業経営体に対して、技術的指導等を行った。	A
		【評価理由】 R2蒲江地区2経営体、R3は米水津地区1経営体に対し技術的指導等を行った。	
イ	A	【取組状況】 二枚貝養殖の経営モデル指標を作成した。 【評価理由】 経営モデル指標を今後の着業希望者に対する説明に使用する。	A

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目		現状値・年度		実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)	カキ類養殖経営体数	8戸	R1	5戸	6戸	10戸	C	C
(2)								

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	現在、4経営体がマガキ試験養殖を行っており、事業化する予定。 今後は養殖資材の貸与などに取り組むことにより、カキ養殖事業のスタートアップを支援する必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	2 養殖業の振興
個別施策	(3) 新たな養殖業の推進
計画頁	P15

【重点取組】 マグロ養殖の赤潮対策に対する取組を行います。

主な取組	ア	赤潮被害を軽減する生簀の開発
	イ	深層誘導手法の開発
	ウ	赤潮発生時の給餌方法の実証

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 赤潮被害を軽減する深層型養殖生け簀の導入に関して、補助金を交付した。	C
		【評価理由】 計画通りの生簀整備ができた。	
イ	C	【取組状況】 養殖マグロを深層へ誘導・定位させる方法として、中層給餌を実験予定であったが、機材や技術的な問題により、実施できなかった。代わりに照明を使った手法により、マグロの行動を観察することで、誘導方法を検討した。	
		【評価理由】 計画通りの実証試験はできなかったが、代替手法による取組を行った。	
ウ	D	【取組状況】 赤潮発生時でも給餌できるように、中層給餌を実験予定であったが、機材や技術的な問題により、実施できなかった。	
		【評価理由】 計画通りの実証試験ができなかったため、試験方法を見直す必要があった。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1) 養殖マグロ深層型生簀の設置 (実証)	1か所	R1	1か所	1か所	-	A	A

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	赤潮発生時の給餌方法には技術的課題が残り、引き続き実証試験を行う必要がある。しかし、マグロが赤潮層を避けて行動することが確認されたことや、実証試験で用いた観測機器によるデータなどは、他の魚種の赤潮対策に活用していきたい。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	3 担い手の確保と育成
個別施策	(1) 担い手の確保
計画頁	P17

【重点取組】 各種就業フェアに参加し雇用機会の創出に取り組みます。

主な取組	ア	漁業就業希望者に対する説明資料やPR動画の作成
	イ	漁業経営モデル指標の策定
	ウ	就業フェア等での新規就業者確保

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価		取組状況及び評価理由	平均評価
ア	B	【取組状況】 漁業就業希望者に対する説明資料やPR動画を作成した。	C
		【評価理由】 R3に本市漁業の説明資料改訂版を「佐伯市の漁業」を作成した。 R2にPR動画を2本作成した（まき網、定置網）。	
イ	A	【取組状況】 カキ養殖、潜水漁業、小型底引、一本釣り、延縄、刺し網について漁業経営モデル指標を策定した。	
		【評価理由】 R2～R4の2箇年で6モデル作成予定であったが2モデルの作成に留まった。	
ウ	D	【取組状況】 「おおいた就農・就業応援フェア」のオンライン相談会に参加したが、相談者は現れなかった。また、福岡で開催された「漁業就業フェア」を視察し、資料作りなどの参考にした。	
		【評価理由】 コロナ禍により、就業イベントの中止が相次ぐ中、オンラインでの参加で新規就業者の確保を試みたが、相談者が現れなかったため確保できなかった。	
エ		【取組状況】	
		【評価理由】	

【 目標値による評価 】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1) 新規就業者漁業経営モデル指標策定	0件/年	R1	2件/年	4件/年	2件/年	A	B
(2) 漁業経営モデルによる担い手の育成	0人	R1	0人	1人	2人	C	
(3) 就業フェアなどによる新規漁業者の確保	0人/年	R1	0人/年	1人/年	1人/年	C	
(4)							

【 総合評価と今後の施策展開について 】

総合評価	課題と今後の施策展開について
C	<p>経営モデルの作成ができたが、今後は、就業希望者の把握、周知を図っていく必要がある。</p> <p>また、コロナの影響もあり就業フェア等のイベントの中止が多く、計画通りの取り組みが出来なかった。</p> <p>今後はインターネット等を活用した漁業の紹介動画や求人情報、移住定住施策の情報提供なども行いながら新規就業者の募集方法を検討し、対面方式によらない募集・説明の方法を模索する必要がある。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	3担い手の確保と育成
個別施策	(1) 担い手の確保
計画頁	P17

【重点取組】新規就業者の就業知識の習得や経営支援に取り組みます。

主な取組	ア	就業前の研修支援
	イ	新規就業者への給付金支給
	ウ	技術指導や研修先の紹介

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総合的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 大分県漁業学校での研修期間中の生活を支援するために、就業準備給付金を支給した。	A
		【評価理由】 R2は1名、R3は2名、R4は1名が大分県漁業学校研修を受講した。	
イ	A	【取組状況】 漁業新規着時の事業活動・生活支援として、新規就業者へ就業給付金等を支給した。	
		【評価理由】 新規着業時の給付金を1名、新規着業時の漁船購入に対する補助金を1名に支給した。	
ウ	A	【取組状況】 就業相談者に対し、技術指導や研修先の紹介等を行った。	
		【評価理由】 就業相談者について、R2は1名をヒオウギ貝養殖業者、R3は1名を上浦地区の養殖業者へそれぞれ研修先として紹介等を行った。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	漁業学校研修の修了者3名は全員が漁業に就業している。 また、そのうち1名が給付金や補助金を活用して小型底びき網漁に必要な漁船・漁具を取得し、R4に着業した。今後、地域の将来を担う存在として活躍が期待される。 今後も新規就業者に対する支援を継続することにより、漁業後継者を増やす必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	3 担い手の確保と育成
個別施策	(1) 担い手の確保
計画頁	P17

【重点取組】 企業など水産業の新たな担い手の創出を図るため、未利用海面や陸上遊休施設の利用促進に取り組みます。

主な取組	

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	B	【取組状況】 漁協との情報交換の中では、未利用海面や利用可能な陸上遊休施設の情報はなかった。	B
		【評価理由】 企業等からの問合せもなく、今のところ海面は十分活用されており、特に取組を行う必要がなかった。	
イ	【評価理由】		

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値(R4年度)	評価	平均評価
(1)						
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	未利用海面の利用及び陸上遊休施設の利用は、企業などからの問い合わせに応じて、適切な施設とのマッチングを図る。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	3 担い手の確保と育成
個別施策	(2) 担い手の育成
計画頁	P18

【重点取組】水産業の将来を担う人材育成に取り組めます。

主な取組	ア	後継者団体の活動支援
	イ	子供たちへ水産業の魅力を伝える取組

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 漁業後継者による先進地視察や養殖技術開発、漁場清掃活動等に対し補助金を交付し、後継者の育成を図った。	A
		【評価理由】 市内5つの後継者団体（漁協青年部）に対し、補助金の交付及び現場指導を実施した。	
イ	A	【取組状況】 漁業後継者団体等とともに、小学生～大学生を対象とした魚料理教室を行い、魚食普及を図った。	A
		【評価理由】 R3はコロナ禍により中止となるイベントが多かったが、さまざまな感染症予防対策を施し、魚料理教室を2回実施した（小学校、高校）。R4は5回実施。	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値（R4年度）	評価	平均評価
(1) 後継者向けの研修会の開催	1回/年	R1	0回/年	5回/年	1回/年	A	A
(2) 学校などでの料理教室、水産教室の開催	3回/年	R1	3回/年	3回/年	3回/年	A	

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	後継者向けの研修会については、水産経営や藻場保全など漁業に関する幅広いテーマを題材にした講義を開催しており、後継者から好評を得ている。 魚料理教室・水産教室については、小学生から大学生まで幅広い参加者を対象に開催しており、魚食文化の継承や水産業の魅力を伝えることに貢献している。 近年、若者の魚離れが顕著となる中で、これらの活動の重要性が増しているため、引き続き行政による支援を行う必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	4 水産加工業の振興
個別施策	(1) 経営力の強化と新商品の開発
計画頁	P19

【重点取組】 専門家の指導による経営改善に取り組みます。

主な取組		

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	D	【取組状況】 コロナの影響で、一堂に会しての研修会や講習会を開くことができなかった。	D
		【評価理由】 新型コロナウイルスによる市場の閉塞により、現状維持が優先され、経営改善にまでには至らなかった。	
イ		【取組状況】	
		【評価理由】	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
D	現在も新型コロナ禍の直下にあり、積極的な経営支援は物理的に難しい。まずは、コロナ禍の前の市場経済に戻らないことには一歩進んだ経営改善までは至らなかった。 原料の漁獲量の減少、多様化する消費者ニーズへの対応など、将来の経営へ与える影響なども見据え、セミナーや講習会の開催を行う。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	4 水産加工業の振興
個別施策	(1) 経営力の強化と新商品の開発
計画頁	P19

【重点取組】 多様化する消費者ニーズに対応した商品開発に取り組みます。

主な取組		

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	C	【取組状況】 R2、R3については新商品開発に取り組めなかったが、R4は未利用魚（海藻の食害魚であるアイゴ）を原材料として新商品の開発を実施する予定である。	C
		【評価理由】 R2、R3はコロナ禍により、積極的な事業展開が困難であったが、R4はアフターコロナ及びSDGsへの世論の高まりを受け、新商品の開発を行う。	
イ		【取組状況】	C
		【評価理由】	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値（～R4）	評価	平均評価
(1) 新商品の開発	1件	R1	0件	1件	5件	C	C
(2)							

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
C	コロナ禍が収束し、市場経済が活発化することを見越して今後も新商品開発を行っていく必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	4 水産加工業の振興
個別施策	(1) 経営力の強化と新商品の開発
計画頁	P19

【重点取組】 水産加工品の販路開拓や魚食普及などの活動に取り組みます。

主な取組	ア	商談会等への参加
	イ	干物七輪焼き体験学習の実施
	ウ	市外 食推協（ヘルスメイト）を対象とした料理教室

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	D	<p>【取組状況】 新型コロナウイルス感染防止により市外/県外での活動が制限されたため、商談会等への参加はできなかった。</p> <p>【評価理由】 外的要因によるものであるが、各企業独自でリモート等による既存の販路継続活動は行た。</p>	B
イ	A	<p>【取組状況】 計画どおり、毎年6校（市内5校、市外1校）において実施した。</p> <p>【評価理由】 学校や関係者においては大変評価が高い。大規模校での実施にも挑戦しており、多くの児童を対象とした食育活動によって魚食について、良いイメージを与えることに成功している。</p>	
ウ	A	<p>【取組状況】 新型コロナによりイベントが中止される中、県が主催する県産魚普及活動の一環として、市外において水産加工品を活用した「お魚料理教室」に参加し、普及・啓発に務めた。</p> <p>【評価理由】 食推協は地域の食生活改善推進活動を効果的に促進させることを目的としており、ヘルスメイトを通じて地域への魚食普及が効果的に行われる。</p>	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1) 干物体験教室の実施	6回/年	R1	6回/年	6回/年	6回/年	A	A
(2)							

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	<p>コロナの影響により、新規取引先を開拓する機会は減ったものの、地元小学生や市外食水協を通じて、一般消費者へ向けた普及活動はできた。</p> <p>今後も、魚食普及活動は継続して行うとともに、都市部での販路拡大など、アフターコロナに向けた活動を加速させることが肝要である。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	4水産加工業の振興
個別施策	(1) 経営力の強化と新商品の開発
計画頁	P19

【重点取組】就労環境のイメージアップを図り、後継者となる人材の確保に努めます。

主な取組	ア	インターンシップへの取組

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価		取組状況及び評価理由	平均評価
ア	D	【取組状況】 水産加工業における地元高校生のインターンシップ1回実施した。	D
		【評価理由】 受け入れる加工業者、実施する地元学校ともに感染防止のため積極的な人的交流をすることはできなかった。	
イ		【取組状況】	
		【評価理由】	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値(R4年度)	評価	平均評価
(1) インターンシップ受入数	0回/年	R1	0回/年	1回/年	3回/年	D	D
(2)							

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
D	コロナ禍が落ち着き、人的交流が可能になったところで、地元学校からのインターンシップ受入による新規雇用者の確保を図る。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	5 水産物の輸出拡大
個別施策	(1) 戦略的な販路の開拓
計画頁	P20

【重点取組】 水産物の輸出を促進するため、佐伯市農林水産物等輸出促進協議会と連携し、各種活動に取り組みます。

主な取組	ア	東アジア、東南アジアを中心とした販路開拓
	イ	海外でのイベント参加による情報収集
	ウ	ターゲット国に応じた輸出戦略の構築

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	B	<p>【取組状況】 養殖魚の輸出促進を図るため、台湾をターゲットとしたPRや輸出に取り組む事業者への支援を行った。また、ブリ、ヒラメ、マグロ、カキの4品目について、英語、中国語、日本語による輸出促進用PR動画を作成し、ネット上でも閲覧できるようにした。</p> <p>【評価理由】 R2年を発端に世界的なコロナウイルスが蔓延したため、魚の解体ショーなどの以前のような渡航して現地で実施することはできなかったが、現地からの要望により、商品を送付して現地スタッフのみでイベント実施をすることができた。</p>	C
イ	D	<p>【取組状況】 新型コロナウイルス感染症の影響で海外でのイベントには参加できなかった。</p> <p>【評価理由】 海外イベントに参加することができず、情報収集を行えなかったため。</p>	
ウ	C	<p>【取組状況】 輸出相手国のニーズの把握と、輸送方法等を検討するため、R2に台湾向けのカキの冷凍輸出試験、R3に中国向け養殖シマアジの輸出試験を行った。しかし、国際情勢やコロナなど、数か月単位での世界情勢の変化もあり、戦略構築まで至らなかった。</p> <p>【評価理由】 輸出試験を行い、カキ、シマアジともに品質には問題はないが、サイズに好みがあることなどいくつかのニーズの把握はできたものの、輸出戦略構築まで至らず情報収集にとどまった。</p>	

【目標値による評価】・・・R4年度実績を記入

項目	現状値・年度	実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
C	<p>輸出促進に取り組む事業者への支援、輸出促進PR動画の作成、輸出試験による相手国のニーズの把握など、販路開拓につなげるための取組を行ってきた。</p> <p>日々更新される国際情勢によって当初の計画が実施できない可能性が高いため計画的な事業遂行は難しいが、佐伯市農林水産物等輸出促進協議会と臨機応変に輸出促進活動に対応していく必要がある。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	6 共同利用施設の整備
個別施策	(1) 漁業の実情に則した設備の整備
計画頁	P21

【重点取組】 漁業者が利用しやすい効率的で効果的な施設の整備に取り組みます。

主な取組	ア	浜プランに基づく計画的な施設整備
	イ	広域浜プランの改定

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価		取組状況及び評価理由	平均評価
ア	B	【取組状況】 浜プランの計画の中で、予算の配分や緊急性、事業の優位性などを考慮しながら、大分県漁協の加工施設整備に取り組んでいる。	B
		【評価理由】 すべての施設整備を計画通りに行うことは困難ではあるが、予算や緊急性等などを考慮しながら、優先順位をつけて調整を図ってきた。	
イ	A	【取組状況】 令和3年度に水産庁承認を受け、第2期広域浜プランに移行済み。 【評価理由】 第2期に移行が完了しているため。	B

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値【R2年度】	実績値【R2年度】	目標値(R2年度)	評価	平均評価
(1) 広域浜プランの改定	- R1	1	1	1	A	A
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	浜プランの計画に基づき、全体の施設整備の調整を図りながら、大分県漁協の加工施設の整備計画に着手したところである。 災害などの予想できない事象により優先順位が変動することもあるが、地域漁業の基幹である施設整備についてはできる限り計画に基づいて整備していきたい。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	7 公設卸売市場の環境整備
個別施策	(1) 市場施設の環境整備
計画頁	P23

【重点取組】葛港市場及び鶴見市場の環境整備に取り組みます。

主な取組	ア	市街地グランドデザインに基づく葛港市場の整備
	イ	鶴見市場の整備計画
	ウ	市場施設の維持補修

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由	平均評価
ア	<p>A</p> <p>【取組状況】 葛港・鶴見両市場ともに開設後40年以上が経過し老朽化が進んでいること、取扱量が年々減少傾向にあること等から公設市場のあり方検討委員会を設置し、今後の市場整備の方向性について検討を行った。その結果、葛港市場については、佐伯市市街地グランドデザインに示された賑わいづくりとあわせて方向性を整理し、民間活力を取り入れた施設の整備をすすめることとし、R3から賑わい施設検討会を立上げて検討した。</p> <p>【評価理由】 葛港市場の整備方針を示すことができ、関係者による協議が始まったため。</p>	A
イ	<p>B</p> <p>【取組状況】 アと同様に、公設市場のあり方検討会での検討結果により、鶴見市場は高度衛生管理型の市場として、優先的に整備することとなった。これを受け、R3に先進事例の視察を行い、R4に基本構想に着手した。</p> <p>【評価理由】 鶴見市場の整備方針を示すことができ基本構想の策定に着手することができたため。一方でR4年度に基本計画も策定予定であったが、現場調整等の時間も要するため、基本計画はR5年度に実施することとした。</p>	
ウ	<p>A</p> <p>【取組状況】 市場設備の故障修繕等に備え、毎年必要な予算を計上し、対応してきた。施設修繕実績は、R2：葛港8件、鶴見21件、計4,413千円、R3：葛港7件、鶴見20件、計5,681千円、R4：予算額計7,500千円。</p> <p>【評価理由】 施設の維持補修は、迅速な対応を行うことで、円滑な市場運営ができた。</p>	
エ	<p>【取組状況】</p> <p>【評価理由】</p>	

【 目標値による評価 】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度		実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)							
(2)							
(3)							
(4)							

【 総合評価と今後の施策展開について 】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	<p>R2～R3にかけて、公設市場のあり方検討委員会の中で葛港・鶴見両市場のあり方を検討した。その結果、両市場の機能は維持することとし、葛港市場は佐伯市市街地グランドデザインに示された賑わいづくりとあわせて方向性を整理し、民間活力を取り入れた施設整備を進めることになった。また、鶴見市場は、高度衛生管理型の市場として、優先的に整備することになり、ともに施設整備の方向性が示された。</p> <p>今後は、それぞれの市場の整備計画を進めるにあたり、関係者の合意形成を図っていく必要がある。両市場とも老朽化が著しいため、新施設完成までの維持補修費を確保する必要がある。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	7 公設卸売市場の環境整備
個別施策	(2) 市場業務における衛生管理の強化
計画頁	P23

【重点取組】 市場の衛生管理の強化に取り組みます。

主な取組	ア	HACCPの考え方による衛生管理の改善

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	A	【取組状況】 R3.6月の法改正にあわせた保健所の指導に加え、葛港・鶴見両市場にHACCPの考え方に基づく衛生管理に関する資料を提供して取組んでいる。	A
		【評価理由】 法改正のタイミングにあわせて指導することができ、衛生管理の重要性を認識することができた。	
イ		【取組状況】	
		【評価理由】	

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値 【R3年度】	実績値 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	改正食品衛生法の趣旨に沿った、市場関係者の意識改革が必要である。安全・安心な市場整備に向けて、衛生管理の重要性を共通の認識とするため、研修会の開催や、市場整備の検討会の中でも議論する必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	8 管理漁港の機能保全と強化及び漁港施設の新設
個別施策	(1) 漁港施設の長寿命化
計画頁	P24

【重点取組】

主な取組	ア	老朽化が進む漁港施設を計画的に補修・補強します。

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	B	<p>【取組状況】</p> <p>①(県施行)水産物供給基盤機能保全事業 ・蒲江漁港 (116)-2.0m物揚場補修 (10-1,10-2)物揚場補修 (9)前の浜物揚場補修 (166)船揚場補修 (113)小水ヶ浦物揚場護岸補修 ・松浦漁港 泊地浚渫 (86)護岸補修 (72-1)取付護岸補修</p> <p>②(県施行)機能増進事業 ・蒲江漁港 用地舗装補修、側溝補修、防舷材更新、照明灯設置 ・松浦漁港 防舷材更新、側溝補修</p> <p>③海岸堤防等老朽化対策事業 ・長寿命化計画策定 1式 R2完 ・入津漁港海岸(竹野浦河内地区)老朽化対策工事 (184)護岸L=149m R4完</p> <p>④大入島地区水産物供給基盤機能保全事業(高松漁港) (16-1)高松東防波堤 L=55m R3完</p> <p>⑤鶴見地区水産物供給基盤機能保全事業 ・吹浦漁港 O物揚場 L=47.4m -2.0m物揚場 L=60.4m R4完 ・二又漁港 E係船護岸 測量設計・羽出漁港 -2.5m物揚場 測量設計</p> <p>⑥大島地区水産物供給基盤機能保全事業(大島漁港)地下南防波堤保全工事L=42m</p> <p>⑦佐伯地区水産物供給基盤機能保全事業(護江漁港)浮き防波堤チェーン取替工事 R3完</p> <p>⑧蒲江2地区水産物供給基盤機能保全事業(尾浦漁港)泊地内浚渫工事 R4完</p> <p>【評価理由】 市の厳しい財政状況のため、予算額に制限がかかることで事業期間が長期化しているが、事業を休止することなく着実に進捗することができた。</p>	B

【目標値による評価】

項目	現状値・年度	実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値(R4年度)	評価	平均評価
(1)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	<p>大部分の漁港施設は、建設後30年以上経過しており、今後ますます老朽化対策が急務となっている。</p> <p>今後は、背後地の重要度等を再度精査し、計画的に事業実施することにより、コストの平準化を図っていく。</p>

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	8 管理漁港の機能保全と強化及び漁港施設の新設
個別施策	(2) 漁港施設の機能強化
計画頁	P24

【重点取組】

主な取組	ア	高波被害が予想される漁港施設について機能強化・防護対策を行います。

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	B	<p>【取組状況】</p> <p>(ア) 施設を地震や波浪・津波等に耐えうるものに改良することにより、自然災害から漁港・漁村を守る。また、消波工設置等により、漁船航路の静穏が向上し、漁業出漁回数の増加や船舶航行時の安全性の向上が図られる。</p> <p>①県施行（松浦漁港機能強化事業）(耐震) 防波堤 L=215m改良 R3完 岸壁 L=167m改良</p> <p>②県施行（松浦漁港海岸）(津波対策) 擁壁 測量・試験1式</p> <p>③県施行（蒲江漁港海岸）(津波対策) 擁壁 測量・試験1式</p> <p>④入津地区漁港施設機能強化事業（元猿漁港）防波堤 L=145mの改良(消波工)</p> <p>【評価理由】</p> <p>市の厳しい財政状況のため、予算額に制限がかかることで事業期間が長期化しているが、事業を休止することなく着実に進捗することができた。</p>	B
イ			

【目標値による評価】

項目	現状値・年度	実績値【R3年度】	実績値【R4年度】	目標値(R4年度)	評価	平均評価
(1)						
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	R4年により発生した地震により、漁港施設は大きな被害を受けた。今後は漁港施設の耐震化計画や海岸の津波高潮対策を図っていく必要がある。

第1次佐伯市水産業振興計画 個別施策評価調書【R2～4総括評価】

基本施策	8 管理漁港の機能保全と強化及び漁港施設の新設
個別施策	(3) 漁業活動と関連する漁港の一体的な整備
計画頁	P24

【重点取組】

主な取組	ア	漁港泊地内の静穏度を向上や、漁業活動の効率化を図るため、防波堤を新設します。
	イ	漁業活動の効率化を図るため、物揚場及び道路等を新設します。

【重点取組による評価】・・・第1次計画の総括的な取組状況及び評価理由

評価	取組状況及び評価理由		平均評価
ア	B	【取組状況】 ①長田地区水産生産基盤整備事業 全体計画 防波堤150m R4まで80m	B
		【評価理由】 事業工程については、若干の遅れがあるものの概ね計画通り進捗している。	
イ	B	【取組状況】 ①猿戸漁港地域水産物供給基盤整備事業 ・-3.0m岸壁L=85m ・突堤L=80m ・-2.5m物揚場L=55m ・護岸L=33m ・用地1式 【評価理由】 市の厳しい財政状況のため、予算額に制限がかかることで事業期間が長期化しているが、事業を休止することなく着実に進捗することができた。	B

【目標値による評価】・・・R4年度実績値を記入

項目	現状値・年度	実績値 【R3年度】	実績 【R4年度】	目標値 (R4年度)	評価	平均評価
(1)						
(2)						

【総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	猿戸漁港地域水産物供給基盤整備事業はR6年度に完成予定である。今後は新規事業を立ち上げを図っていく。